

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果の概要について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

平成31年4月18日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果をまとめました。なお、本調査結果の詳細については、教育委員会で分析した後、9月頃に公表する予定です。

1 実施の状況

調査を実施した川崎市立学校は167校で、児童生徒合計約20,970人が参加した。

内 訳：小学校 114校 中学校 52校 特別支援学校 1校（小学部・中学部）

参加人数：小学校調査 約11,980人 中学校調査 約8,990人

※ 小学校は第6学年、中学校は第3学年が対象

※ 調査の種類により調査人数は若干変動

2 教科に関する結果の概要

（1）教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

		小学校調査			
平成31（令和元）年度		国語		算数	
問題		14問		14問	
川崎市	正答数（問）				
	正答率（％）	9.0	64	9.8	70
全国	正答数（問）	8.9	63.8	9.3	66.6
	正答率（％）				

		中学校調査					
平成31（令和元）年度		国語		数学		英語	
問題		10問		16問		21問	
川崎市	正答数（問）						
	正答率（％）	7.4	74	9.6	60	12.4	59
全国	正答数（問）	7.3	72.8	9.6	59.8	11.8	56.0
	正答率（％）						

※英語調査については「話すこと」調査を除きます。 ※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果です。

※文部科学省の公表と同様に、政令指定都市の平均正答率は整数値で表しています。

（2）全体の傾向

本市においては、上記（1）のいずれの平均正答率も全国に対して±5ポイントの範囲内にあり、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

（3）各教科の概要（◇：比較的できている点 ◆：課題があると考えられる点）

【小学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、「書くこと」「読むこと」において全国の結果を上回っている。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については下回っている。

話すこと・聞くこと ◇話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること

書くこと ◆目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと

読むこと ◇目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと
◇目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

◆文と文との意味のつながりを考えながら、接続後を使って内容を分けて書くこと

【小学校 算数】

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、全ての領域で全国の結果を上回っている。

- 数と計算** ◇示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用すること
◆示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること
- 量と測定** ◆示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること
◆資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること
- 図形** ◇台形について理解すること
◆図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること
- 数量関係** ◇棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること
◆示された小数の乗法及び除法の式の意味について考え、理解し、それをを用いること

【中学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」において上回っている。「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については下回っている。

- 話すこと・聞くこと** ◇話合いの話題や方向を捉えること
◆話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと
- 書くこと** ◇書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること
- 読むこと** ◇文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**
◆封筒の書き方を理解して書くこと

【中学校 数学】

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、「数と式」「図形」において上回っている。「関数」については下回っている。

- 数と式** ◆数の集合と四則計算の可能性について理解すること
◆連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることを説明すること
- 図形** ◇図形について、平行移動の意味を理解すること
◆結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること
- 関数** ◆反比例について、表から x と y の関係を式で表すこと
◆式やグラフを用いて、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 資料の活用**
◇簡単な場合について、確率を求めること
◆問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断すること

【中学校 英語】

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域の平均正答率を全国の結果と比較すると、全ての領域で上回っている。

- 聞くこと** ◇情報を正確に聞き取ること
◇聞き手として必要な情報を聞き取ること
◆聞いた内容について適切に応じること
- 読むこと** ◇情報を正確に読み取ること
◆読んだ内容について適切に応じること
◆説明文の大切な部分を読み取ること
- 書くこと** ◇文の中で適切に接続詞を用いること
◆まとまりのある文章を書くこと

3 児童生徒質問紙調査結果の概要

学習に対する興味や授業の理解度

○国語の授業の内容はよく分かる。	小学校	87.2%	中学校	79.8%
○算数・数学の授業の内容はよく分かる。	小学校	83.4%	中学校	74.5%
○英語の授業はよく分かる。			中学校	68.4%

規範意識、自己有用感等

○学校のきまり（規則）を守っている。	小学校	93.5%	中学校	95.7%
○自分には、よいところがあると思う。	小学校	83.1%	中学校	75.0%
○将来の夢や目標を持っている。	小学校	81.2%	中学校	67.6%
○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	小学校	95.8%	中学校	93.8%
○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	小学校	79.3%	中学校	70.2%

学習習慣等

○学校の授業時間以外の勉強時間。（※）				
・ 2時間以上	小学校	38.9%	中学校	44.5%
・ 30分以下	小学校	13.7%	中学校	14.6%
○家で、自分で計画を立てて勉強している。	小学校	69.2%	中学校	46.3%

地域や社会に関わる活動の実施状況等

○今住んでいる地域の行事に参加している。	小学校	57.0%	中学校	39.9%
○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	小学校	55.8%	中学校	35.4%

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等

○5年生（中学校1，2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	小学校	80.4%	中学校	77.3%
○5年生（中学校1，2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。	小学校	68.6%	中学校	62.9%
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	小学校	77.8%	中学校	73.5%

基本的な生活習慣等

○朝食を毎日食べている。	小学校	94.5%	中学校	89.8%
○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている。	小学校	77.8%	中学校	72.8%

- ・ 数値には「どちらかといえば」を含む
- ・ (※) 印は「普段（月～金）1日当たりの時間」

【問合せ先】

川崎市教育委員会事務局総合教育センター
カリキュラムセンター 室長 鈴木
電話 044-844-3720